2011年1月31日
国立大学法人 東京大学
文京区

東京大学と文京区が
地域活性化に関する共同研究を開始
「社会起業家育成アクションラーニング・プログラムの開発と地域活性化の取り組み」

国立大学法人東京大学（総長：濱田 純一、以下東京大学）と文京区（区長：成澤 廣修）は、「社会起業家育成アクションラーニング・プログラムの開発と地域活性化の取り組み」に関する共同研究を開始することに合意しました。

今回の合意を踏まえ、東京大学産学連携本部（本部長：影山 和郎）と文京区は、2011年4月から、「社会起業家育成アクションラーニング・プログラム」を実施します。本プログラムは、社会起業家の育成と地域の活性化を目的として、東京大学キャンパスがある本郷地区を舞台に、地域が抱える様々な課題に対して、学生・区民の起業マインドに火をつけることにより、クリエイティブな手法で問題解決を実現しようとする試みです。

導入段階では、東京大学学生と文京区民を対象に、起業や地域活性化に関する講義、本郷界隈でワークショップを行い、地域が抱える課題を解決するための具体的な提案（ビジネスプラン）を検討します。実践段階では、参加者を選抜し、2～3チーム（各チーム5名程度）に編成し、検討されたビジネスプランを踏まえて、本郷の地域活性化を目指して設立されたNPO法人と協力して、実際に事業化に着手します。そして最後に、成果発表会を行います。

東京大学は、学生向けの起業教育プログラム「東京大学アントレプレナー道場」を 2005 年度以来 6 年間にわたって開催していますが、近年、社会起業（ソーシャル・アントレプレナーシップ）に関心を持つ学生の増加を背景に、今回文京区と連携して、従来のものに加えて新たな教育プログラムを開始することにしました。

本プログラムは、アクションラーニングを重視しており、他のビジネスコンテストのようにアイデアを提案するだけに留まらず、問題解決の仮説を立て、実際に地域でそれを実践します。そして現場でその仮説の検証を行い、改善点があれば仮説を修正して次のアクションに繋げていく（PDCA サイクル）というように、東大生と区民との協力による持続的な地域活性化モデルを目指します。

文京区は、東京大学テクノロジー・リエゾン・フェロー（以下TLF）研修制度を活用し、平成21、22年度に、職員2名（各年度1人）を研修生として、東京大学産学連携本部に派遣してきました。本共同研究および今回試みる新プログラムは、TLF研修を通じて得られたネットワークにより実現したものです。

（参考）

「東京大学アントレプレナー道場」について

東京大学学生が参加できる起業教育プログラム。開講以来、過去6年間で1,000を超える学生が登録参加した。例年4月にスタートし、10月に行われる学生チームのビジネスプランコンテストで終了する6ヶ月間のプログラム。初級、中級、上級の3つの段階で運営され、進級のためには学生あるいは学生チームは具体的な事業化提案を提出することが求められている。3年前からコンテストの上位入賞チーム学生を北京大学に派遣し、同大学の起業教育プログラムの優秀チーム学生と交流するプログラムを行っている。

「テクノロジー・リエゾン・フェロー研修制度」について

東京大学では、自治体等公的機関の職員を対象とした、産学官連携推進のための専門家育成プログラムを実施している。豊富な実績を持つ東京大学教員や各分野の第一線で活躍する外部講師による講義のほか、共同研究創出の実行や教員への研究内容インタビューを通じた連携提案テーマの発掘などのオン・ザ・ジョブ・トレーニングによる教育を行っている。

本件に関するお問い合わせ先

東京大学　産学連携本部　事業化推進部

http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/index.html

文京区　区民部　経済課　産業振興係

http://www.city.bunkyo.lg.jp/